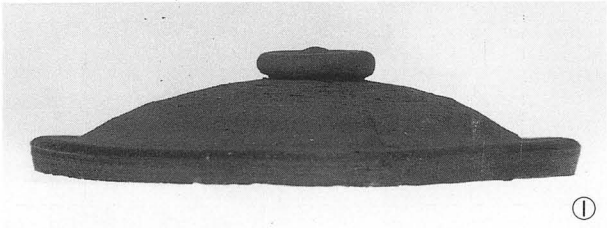
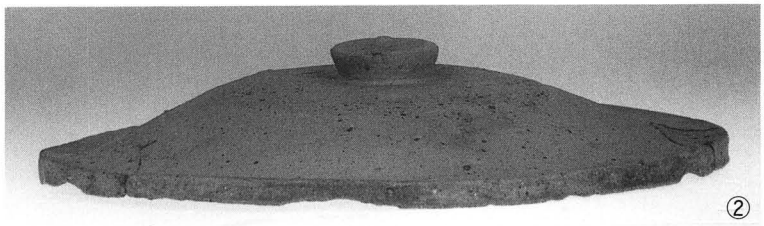
図版20

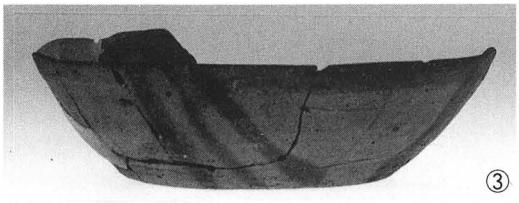
第13号住居址（NW）



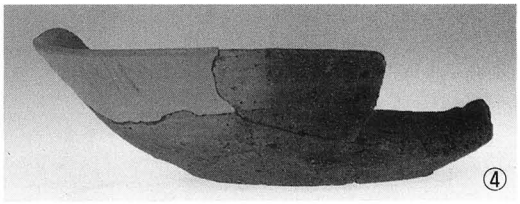
①



②

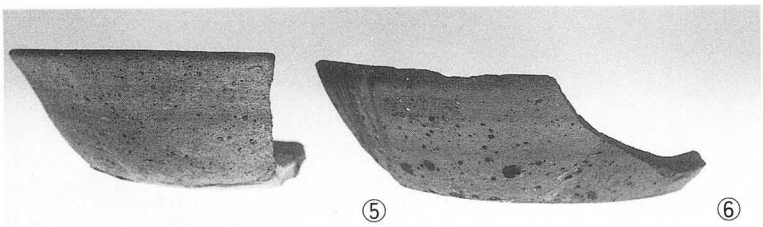


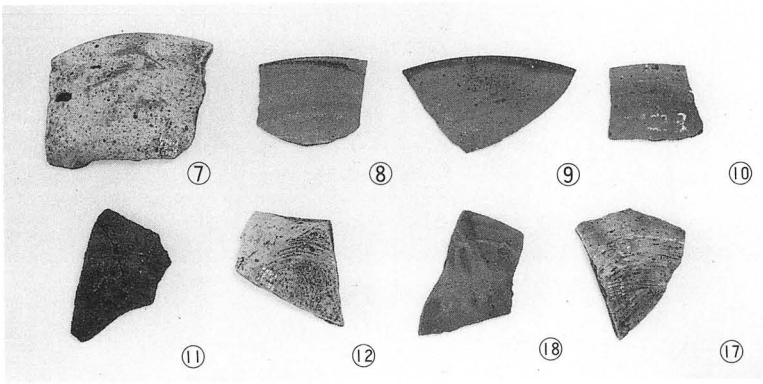
③

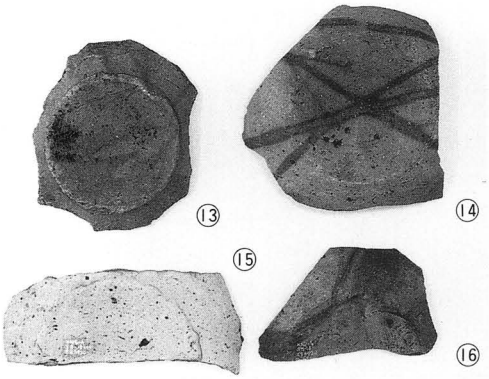


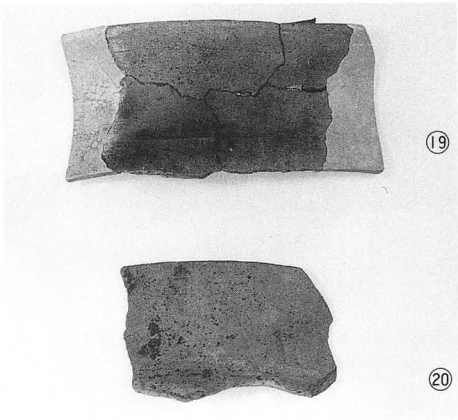
④

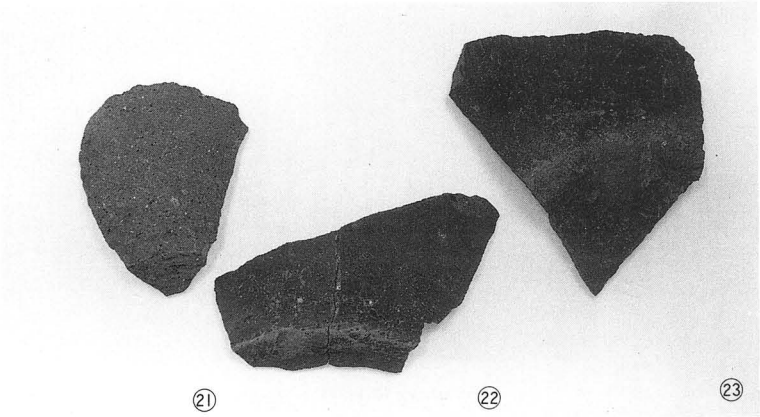
第13号住居址出土遺物





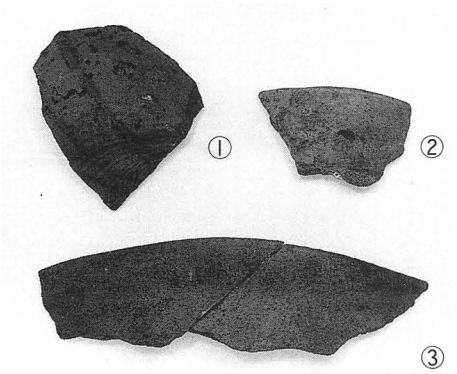


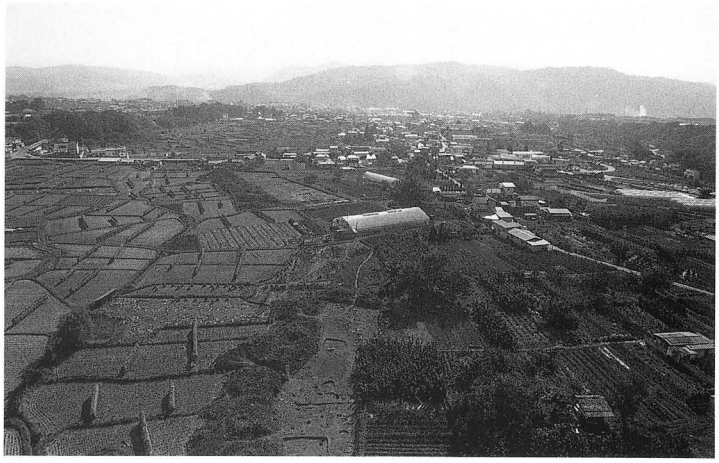




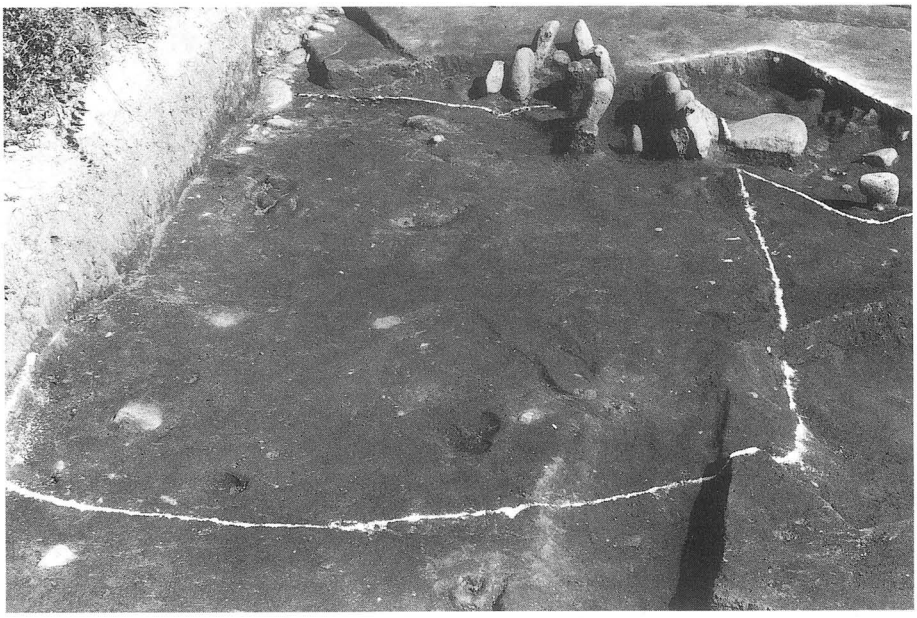
第13号住居址出土遺物(2)

第15号住居址（S）

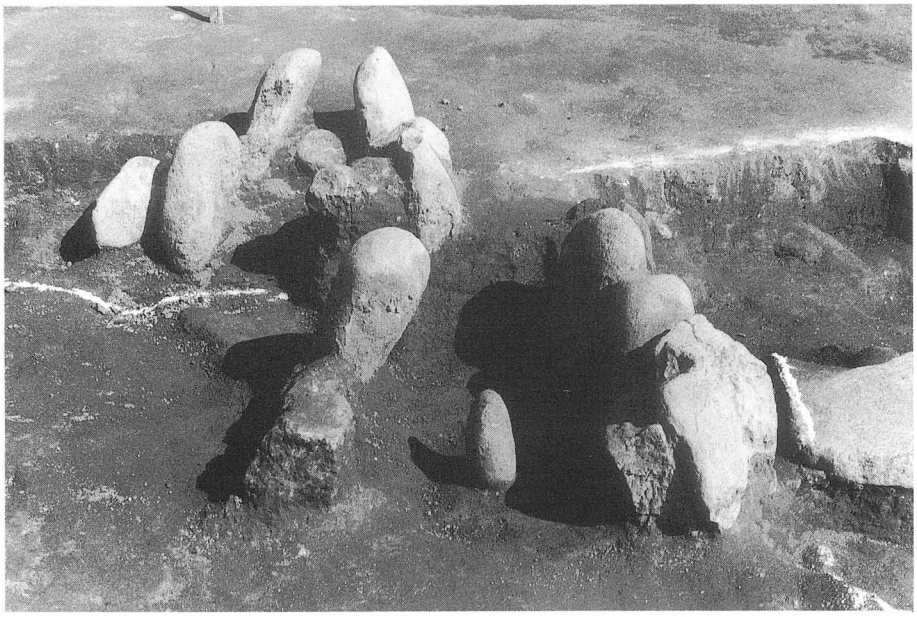




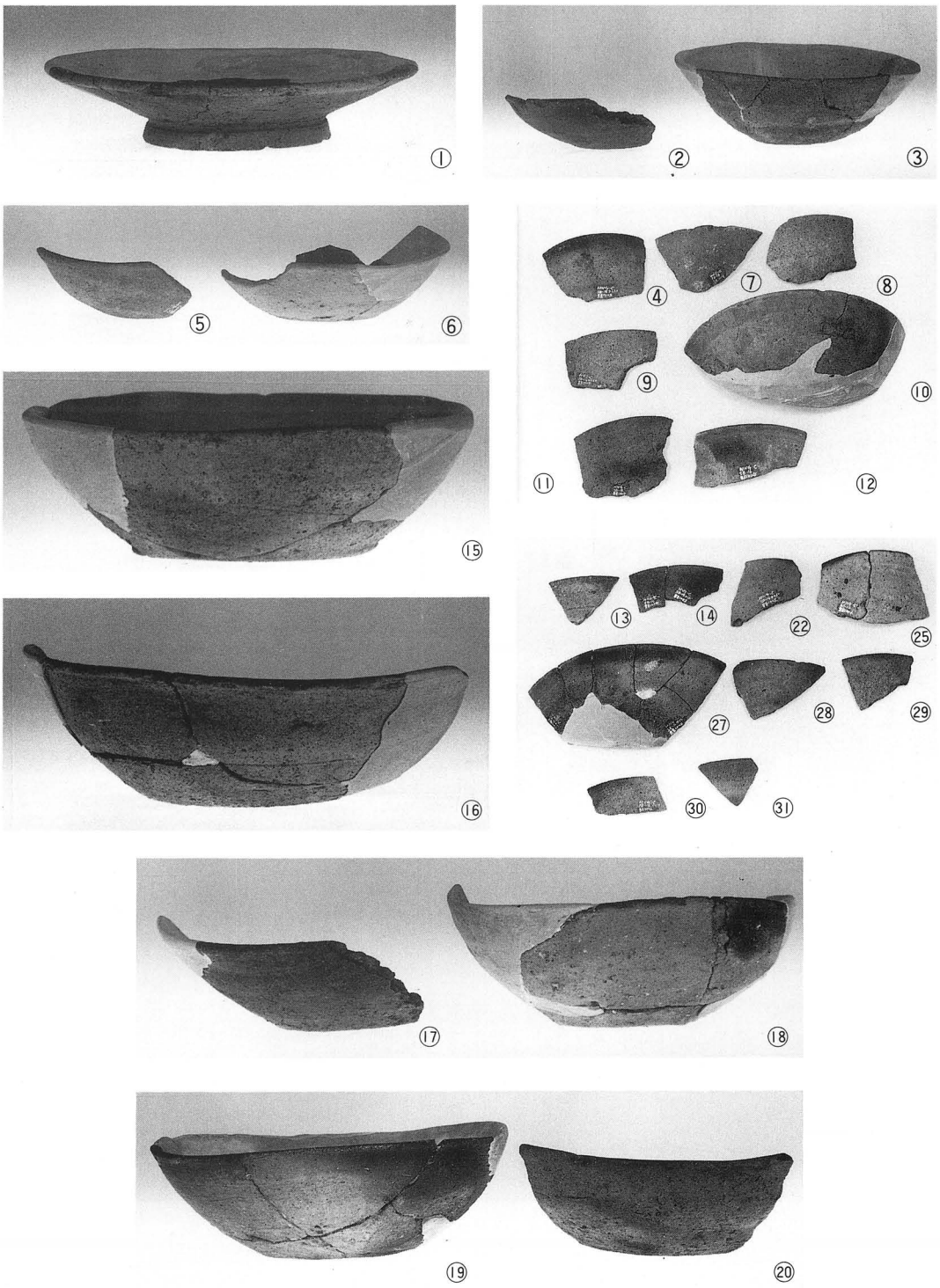
第15号住居址出土遺物



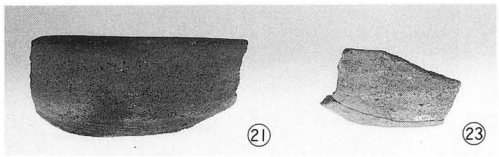
第16、17号住居址（S）

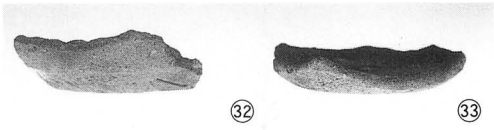


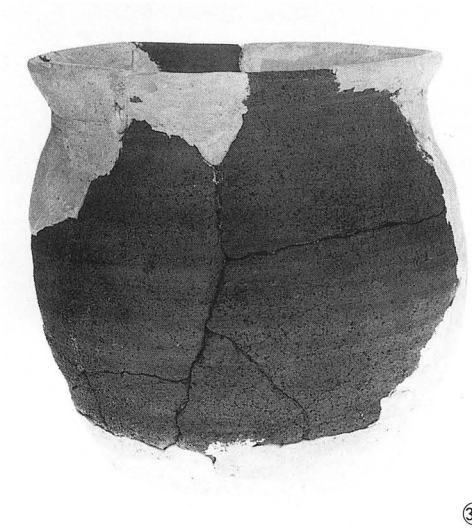
第16、17号住居址竈（S）

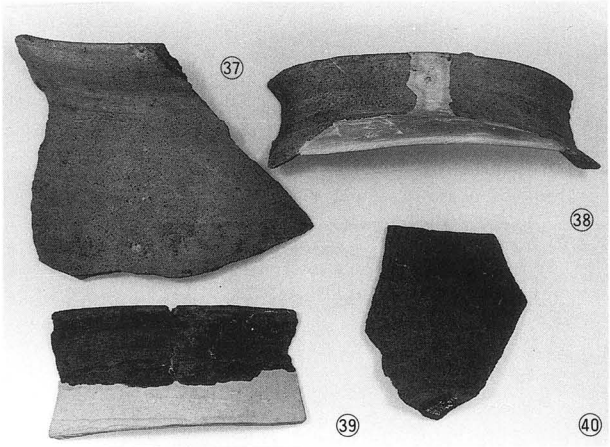


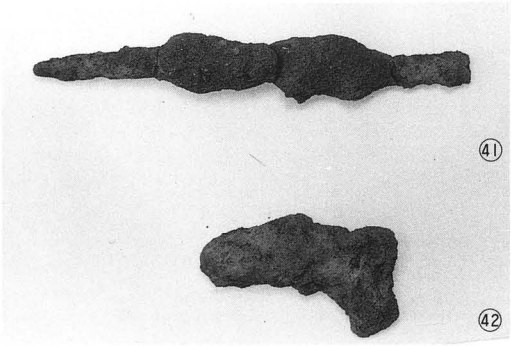
第16号住居址出土遺物(1)





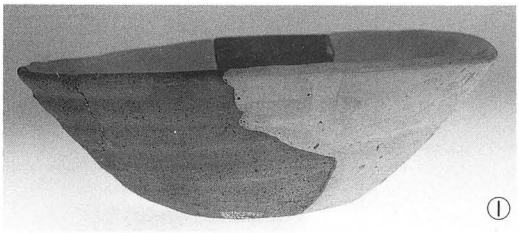


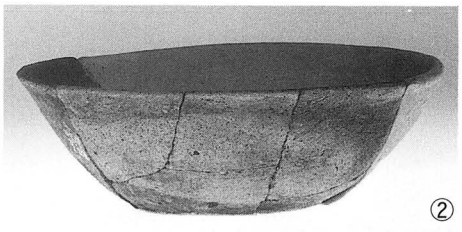


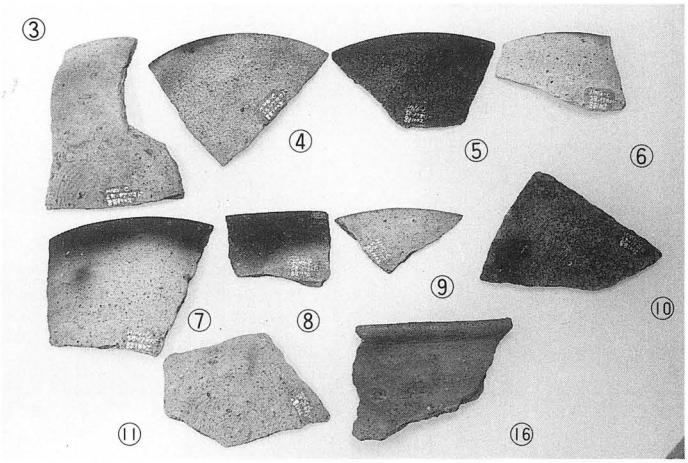


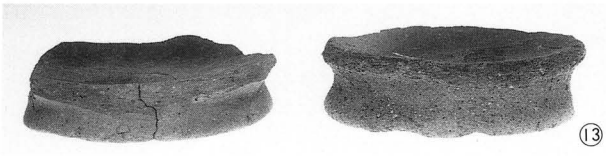
第16号住居址出土遺物(2)

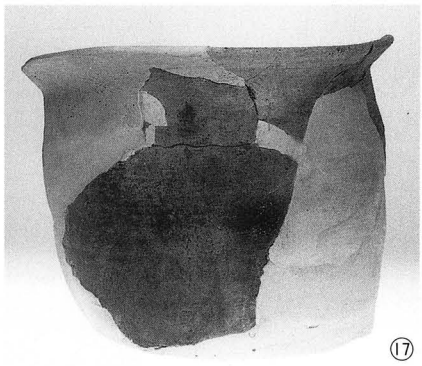
図版26

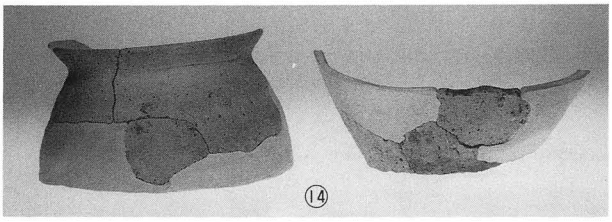


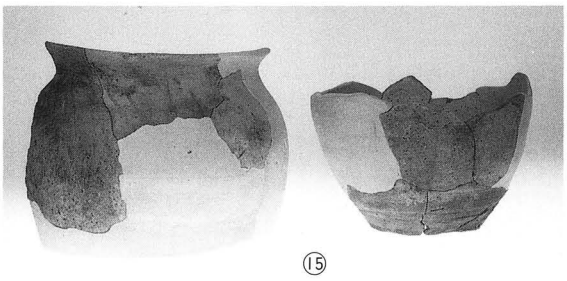




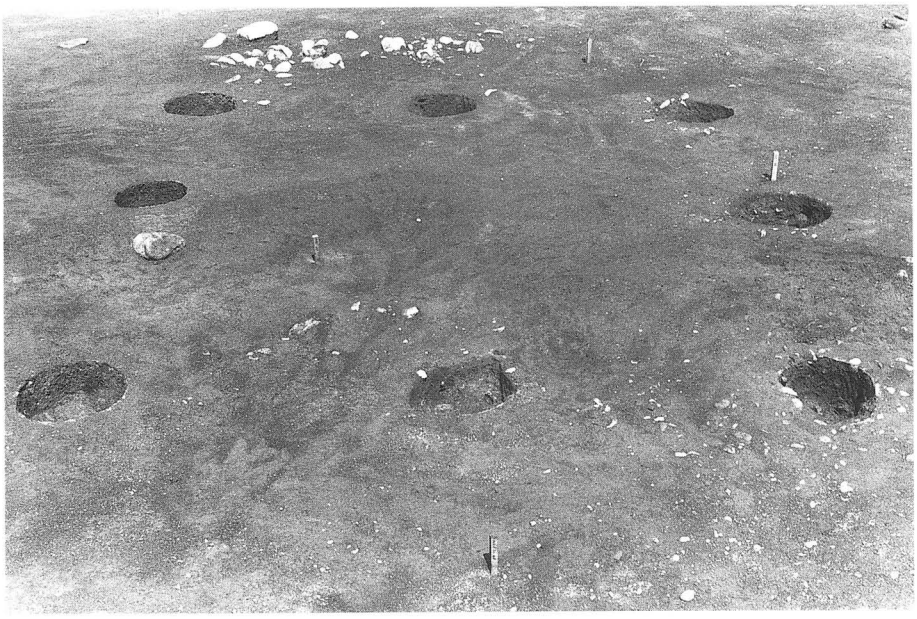








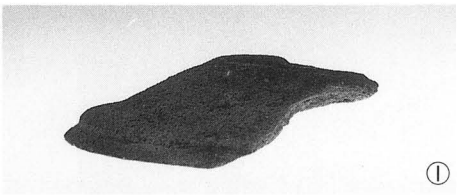
第17号住居址出土遺物

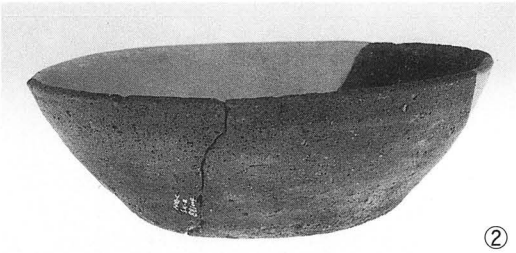


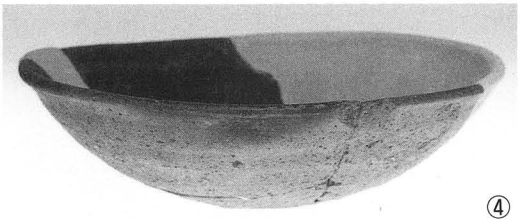
第１号掘立柱建物址（ＳＷ）

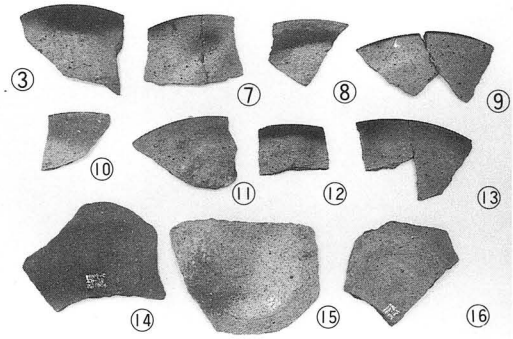
第２号掘立柱建物址（Ｎ）

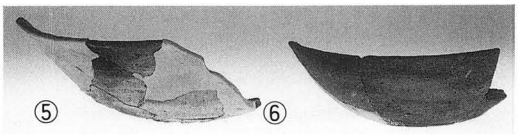
図版28

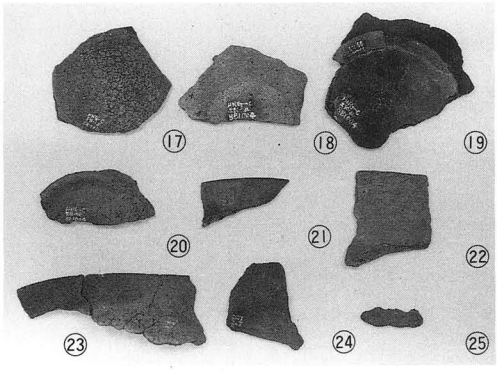


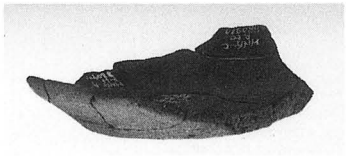




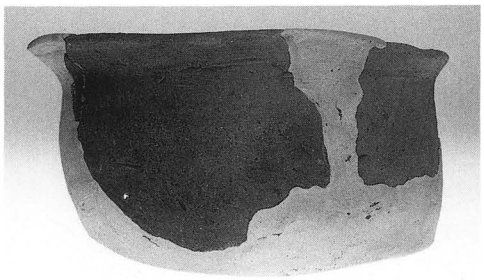




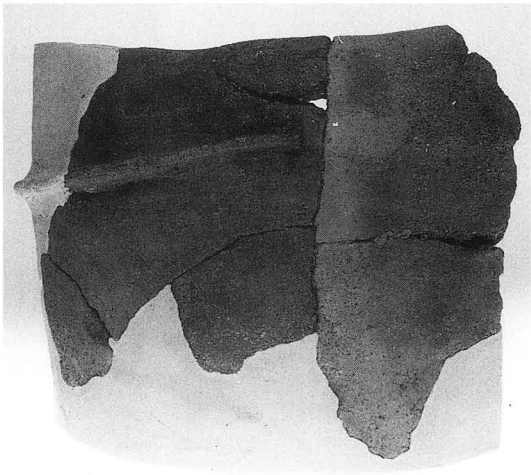




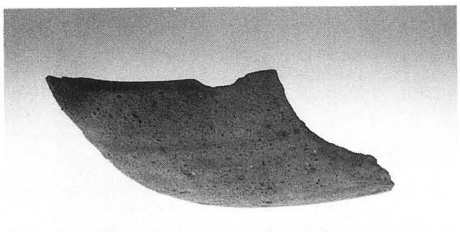
P66－1



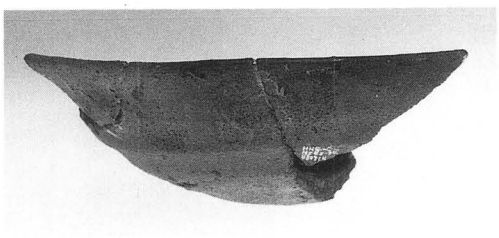
P－71



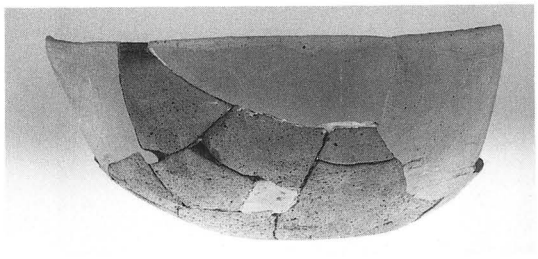
P66－2



N1E1－58

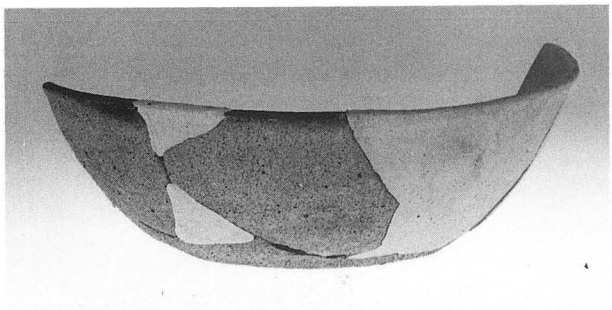


N5E3－74－7



N5E3－74－14

N5E3－88－2



N5E3－87－3

A区遠景（N）

図版30

現地説明会

作業員記念写真

第五章　あ　と　が　き

土木・建設業を営まれる方々のセオリーに『段取り八分』というのがあるといいます。つまり、何をやるにしても、事前の準備で事の正否の80%が決まる、という意味だそうです。これによれば、今回の調査はあらゆる意味でこの『段取り』がうまくいったとは言えませんでした。目先の事象に囚われ、先の見通しが甘く、その不備がこの報告書の随所に現れる結果となってしまった点、今回の反省材料として銘記しなければなりません。

ここにお届けした報告書は、私が担当者として、川上調査主任の指導の下、調査の着手から報告書の刊行まで一貫して携わった初めてのものです。本来考古学には門外漢で、浅学の私が兎にも角にもここまで漕ぎ着ける事ができたのは、調査団の諸先生、諸先輩がたのご支援や、職場の上司、仲間のご理解があったればこそのものです。殊に猪熊先生にはお忙しい学校の合間を縫って調査全般に亙って御尽力戴きました。また、駒澤大学倉田教授、御代田町教育委員会堤氏には、調査の参考にと貴重な報告書を恵贈下さいました。現場調査では、並々ならぬ熱意をもって臨んで戴いた作業員の方々には、本当に頭の下がる思いでした。自分の息子や、あるいは孫ほどの若輩の私の、おぼつかない指示を嫌な顔ひとつせず聞いて戴きました。そして、担当者として最も困惑した整理作業における、河上氏の献身的な努力と熱意は特筆すべきものがありました。ここに記して各位に心から御礼申し上げる次第です。

さらに、柳沢信委員長以下ほ場整備実行委員会の皆様には無理なお願いに御理解を戴き、上小地方事務所の小森主事、上田市農村整備課の西入主事には何かと相談にのって戴きました。また、整理作業室として便宜を図っていただいた上田市農村環境改善センターの職員の方々、現場調査中は何かと御迷惑をお掛けした中村壽雄林之郷自治会長を初めとする地元の皆さん、各位にお詫び方々御礼申し上げるものです。

高速交通網の到来とともに、上田市の埋蔵文化財保護を取巻く状況は、いよいよ厳しさを増してきています。同時に、広く市の行政職員として、市民の皆さんの利便を考えるとき、両者の共存を図っていくのは大変に困難なものがあります。数千年の歴史の証人である遺跡を、記録保存の名の下に自らの手で曝すには、いささか荷が重く感じられます。この報告書が、そして今後の発掘調査が、歴史の代弁者としての責を全うできますよう、皆様の御指導・御叱責をお願いし、あとがきといたします。

（中沢）

上田市文化財調査報告書第35集
林之郷
林之郷遺跡緊急発掘調査報告書
発行　1989年3月25日
上田市教育委員会
印刷　上田印刷株式会社